

現状・課題

☆生活実態調査(平成30年度実施)から、貧困が疑われる世帯が全体の約14%と一定数いることが分かった。一方、外見や所持品だけでは実態を把握しきれず、子どもの貧困は見えにくい状況も分かった。

☆学校、保育園等と連携し、見えにくい子どものSOSや、その抱えている課題や困りごとを理解するとともに、支援につなげていく必要がある。

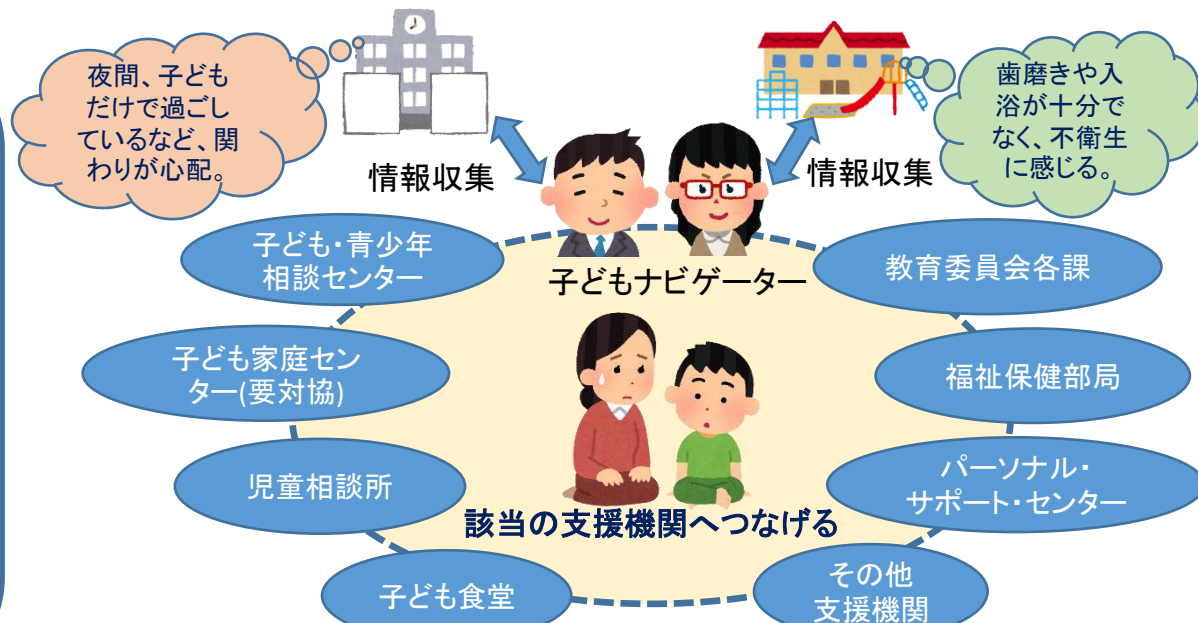
展開の施策

子どもの貧困対策推進計画(令和2年度～令和6年度)にのっとり、子どもたちが生まれ育った環境によってその将来が左右されることなく、すべての子どもたちが未来に夢や希望を持てるよう包括的な支援体制を構築する。

長岡市では、子どもナビゲーターを2人配置し、子どもが通う学校、保育園等と連携し、見えにくい子どものSOSや、その抱えている課題や困りごとを理解するとともに、関係機関と連携し支援体制を構築する。

…子どもナビゲーターの業務…

- 学校や保育園、幼稚園、こども園などから「子どもの貧困(相対的貧困)」の視点での支援が必要な子ども(家庭)の情報を収集する。
[令和元年度 288件]
経済面だけでなく、親からの愛情や社会的経験、文化的経験の欠如による影響が疑われる事例も把握する。
- 関係機関と情報を共有し、連携を強化することで、支援が必要な家庭を速やかに該当の関係機関につなげる。 [令和元年度26件]
- 子どもナビゲーターの認知度をあげ、学校、園、保護者、子どもからの相談電話を受け付ける。 [令和元年度14件]



関係部署、関係機関連携による支援体制を構築